

# “グローバル化の時代における 協同と平和” をめざして



ICA ソウル総会報告

菅野正純（日本労協連理事長）

「グローバル化の時代における協同と平和」をメインテーマに、ICA(国際協同組合同盟) 2001年総会が、10月16、17日、韓国・ソウルの国際会議場「COEX」で行われました。日本労協連からは、18名が訪韓。総会と共に、これに先立つ、「青年セミナー」CICOPA(労働者協同組合委員会)の執行委員会と総会に参加しました。あわせて韓国労協の現場も訪問し、交流を深めることができました。

ICA総会第1日目の開会総会は、韓国の伝統舞踊と音楽で始まりました。その中を金大中大統領夫妻が登場。大統領は、競争という「光」の反面にある、貧困と差別というグローバル化の「影」を指摘し、協同組合とICAの精神の重要性を述べ、「世界に対してすすむべき方向を示していただきたい」と訴えました。

続いてWTO(世界貿易機関)のパニチパカディ次期事務局長が基調講演。豊かな国と貧しい国の間と、豊かな国を含めたすべての国内部の、双方の富が格差を拡大していることを強調し、「自由で公正な貿易」を訴えました。

開会総会の締めくくりに立ったJA全中・原田会長は、単純な自由貿易の拡大に疑問を投げかけ、「農業の多面的な機能の尊重」「身

土不二・地産地消」を提唱しました。

## 《衝撃を与えた障害者協同組合からの問題提起》

第1日目午後は、「グローバル化の時代における協同と平和」と題するパネルディスカッションが行われ、英国・協同組合中央会のグリーン女史、シンガポール全国労働組合評議会タン氏、FAO(国連食糧農業機関)ランドリアマモニー女史、ILO(国際労働機関)シュベットマン氏らが発言しました。

グリーン女史は、「サッカー協同組合」「学生ユニオン協同組合」など、英国における新しい協同組合の流れを報告。

ランドリアマモニー女史は、農業の担い手の「女性化」を指摘し、「農村産業」・食品加工などを通じた女性の社会参加の意義を強調しました。

シュベットマン氏は、世界的な失業の増大と労働の不安定化に対して、「コミュニティの持続可能な発展に関わる、価値ある事業」や、「社会サービスの新しい供給方式」「協同を通じた就労創出」などの、ILOの方針を説明しました。【資料1】

パネルディスカッションの最後に、フィリピンの障害者協同組合のリチャード・アルセーニョ氏がフロアから発言。「世界の協同

組合運動は、障害者をどう位置づけるのか」「慈善の対象としてではなく、生活にどのように希望を与えるのか」と問題を投げかけました。

氏は、翌日の「ビジネス・フォーラム」では報告者として発言。高齢化と暴力的紛争の拡大の中で、障害者がいっそう増加し、アジア・太平洋で2億5000万人から3億人、世界全体では5億人に達していると述べ、フィリピンでの学校用椅子づくりの実践を報告しました。

この発言で、障害者の生活と労働の問題に、ICA総会のハイライトが大きく当たられることになりました。

二日目の「ビジネス・フォーラム」は、「食の安全」「協同組合金融」「サービス協同組合」の3つの分科会で行われましたが、「サービス協同組合」は「ケアによる(問題)解決」と題して、英国の情報協同組合「ポプテル」、ネパールの「マウント・エベレスト協同組合」、イタリアの高齢者ケア社会的協同組合などの実践が報告されました。

このうち、イタリアの社会的協同組合は、7000協同組合に近づき、住宅協同組合や高齢者団体と結んだ高齢者のニーズに応えるモデル住宅プロジェクトや、協同組合保険会社と連携した、ケアへの現金給付と社会的協同組合のネットワークによるサービス提供などを、新たに展開していることが注目されました。

## 《“21世紀の世界戦争”に抗する平和と民主主義の協同へ》

2日目の午後は、機関としての正式な会議を行い、「協同組合の利点」「民主主義と平和」「協同組合政策と法制」「リオ協同組合宣言」など7つの決議を採択しました。【資料

## 2】

それらの決議では、仕事を生み出し、社会的排除と闘う協同組合が、民主主義と平和との担い手であること。ILOの「協同組合促進」勧告に向けて、ICAとして会員組織と専門家が作業部会を設けて取り組むこと、世界のより公正な社会的・政治的・経済的秩序に対する協同組合運動の責任を国連に伝えることを明らかにしました。

日本の大学生協連が、ICAの会員として加入を認められたことも、今回の総会の重要な出来事でした。

この総会では、ロドリゲス会長が退任し、イタリア・レガ(全国協同組合・共済組合連盟)のバルベリーニ会長が、新たにICAの会長に就任しました。

就任のあいさつで、バルベリーニ氏は、次のように述べています。

「21世紀の新しい世界戦争に発展する状況がある。テロとは正しい方法で闘わなければならない。軍事行動はそれを解決する方法ではなく、人類をより大きな戦争に巻き込むものである。重要なのは、テロが起こり拡大する原因であり、現在の経済のグローバル化を見なければならない」

「各国のアイデンティティの強化が敵対に至らないよう、平和、人間の尊厳、環境といった、人類的な価値に立った、“責任ある市民の参加”が重要になっている」

「変革のビジョンを明確にし、協同を通じて不況に立ち向かい、危機を克服していこう」。

21世紀初頭、世界が戦争と危機の時代を迎えるなかで、平和と民主主義の根本に立ち返った協同組合運動の再構築が始まるようとしている。そのことを強く予感させる総会の終幕でした。次回総会は、2003年、ノルウェー

のオスロで開催されます。

### **CICOPA（ICA 労協委員会）総会**

10月15日、COEX会議室でCICOPA総会が行われました。

総会には、アジア、中東欧、欧州労協連、中南米、アフリカなどの労協代表約40名が参加。アジアからは、上海の「シーメン協同組合経済諮問委員会」、中国「工業協同組合国際促進委員会」、フィリピン「カアベイ起業・労働者協同組合」が出席。韓国「社会的企業開発委員会」キム・ホンイル理事長が報告と決意表明を行いました。

### **《地域組織づくり》**

ICAの方針のもと、CICOPAも各地域の組織づくりを進めています。ヨーロッパでは、欧州労協連（CECOP）がEUや自治体、労組などと連携して「社会的経済」を強め、中東欧を含む欧州全体の組織（CICOPAヨーロッパ）に発展しようとしています。

「CICOPAコーディネーター」のルベン・ビジャ氏（マドリッド労協連）の活躍で、中南米、アフリカにも組織が確立。イスラム諸国の協同組合を中心に「ICAアジア・セミナー」も開催されました。

今回のCICOPA総会では、日本を「メインパートナー」に、参加各国組織の支援を得て、東アジアの労協の交流とネットワークを進めることが強く求められ、確認されました。

この背景には、大学生協連の主催で6月に東京で開かれた青年セミナーをきっかけに、アジアの草の根労協の交流が始まったこと、日本の労協現場を見学したICAアジア太平洋事務所も労協づくりに強い関心を持ったことがあります。

### **《ILO勧告からCICOPA世界会議へ》**

来年のILO総会で「協同組合促進」勧告を、よりよい形で実現するために、できるかぎり多くのCICOPA会員組織がILO総会に参加すること、ICA全体の取り組みにすることを確認しました。

世界の労協の実践と理論を交流する、第5回「CICOPA世界会議」を、同じく来年10月にプラハで開催することが決まりました。

### **《日本労協連としての発言》**

なお、日本労協連として、「アメリカの“報復戦争”と日本の戦争参加に反対する」ILOの協同組合促進勧告について」の二つの文書をCICOPA総会に配布し、後者について発言しました。【資料3】